

編集後記

前號で豫告の通り、本號は第2回病院學會總會記事を中心に編集した。學會記事に先立ち、本學會の親元である日本病院協會の過ぐる1年間の歩みを回顧し、併せて將來の順調な發展を期待してこれに関する社説を掲げた。これは、同協會の機關誌でもある本誌としては當然なすべきいわば自己反省でもあり、標題に掲げた如く協會幹部に對する世論を代辯するものでもある。日本の病院を1日も早くそのあるべき姿に脱皮させたいと願う吾々病院人としては、折角生れたこの病院協會に非常に大きな期待をかけている。全國の病院を横につなぐ唯一の民主的な團體として、將又國外に對する我が國の病院の代表機關としてその責務は頗る重大と云わねばならない。ここに敢えて直言する所以は、全國に澎湃として起りつゝある病院運動の氣運に應えて緊禪一番、奮起を望む主意に外ならぬ。

病院學會の使命、今期學會の内容及び實況については、橋本會長の挨拶、演説抄録並びに吉田氏の見聞記より充分うかがい知ることができると思うので蛇足は不要であろう。唯今期學會を通じて感じたことは、本學會の特徴としてもつと廣く門戸開放をすべきではないかということである。所謂病院管理者のみの集まりではなく、病院に働く各職種の人達にも進んで参加して貰える様にしたいものだと思う。

次期學會長には、東京地方會の肝煎をして居られた東京都立廣尾病院長原素行氏が満場一致で推舉された。既に本誌の讀者各位にはお馴染の方であるが、窮行實踐型の氏によつて本學會が又々この1年間に大きな歩みをすることを期待してよいであろう。

本學會に於ける内野仙一郎氏の特別講演の内容は、本號には間に合わなかつたが、次號に全文を掲載する。

以上の學會記事の外、本號では卜部氏の手術室と今村氏の救急室に關する論文を掲載した。何れも、今日の我が國の病院にとつて多くの問題點を含むテーマである。卜部氏は、歐米に於ける豊富な知見より、要領よくアウトラインを紹介されているが、その結論にもある通り、國情や慣習を異にする吾々としては、「彼等の諸施設を參考として我國情に適した獨特のものを生み出さなくてはならない……」。手術室は病院の機能を左右する大きなファクターだ。新しい病院が各地で次々と計畫されている今日、眞剣に取組まなくてはならない切實な問題の一つと云えよう。救急室は、手術室程問題が表面化してはいないのかも知れないが、病院によつてはいろいろ悩みもある様だ。東一に於ける一試案が御參考になれば幸いである。

少し毛色の變つた處で、登別の横井氏より寄せられた一日本旅館の給食管理の紹介を掲載してみた。給食は我が國の病院の最も大きな盲點の一つだ。給食問題が解決すれば、病院管理者の苦勞は半減すると云つても過言でないであろう。病院の管理問題にはよくホテルが引合いに出される。そしてその場合の結論としてはいつも經濟的な理由を以て片づけられ勝ちだが、果してそののみであろうか。調理の清潔保持、能率的な配食、溫食の工夫等、彼等に學ぶべき點も尠くないのではなからうか。兎に角一考も二考も要する問題ではある。

こゝ暫らく病院管理研修所修生の寄稿が途絶えていたが、過ぐる冬期の長期研修を受講された村上氏よりよせられた實驗報告を御紹介する。今學會でも松江の武藤氏が論じて居られたが、タイムスタデーは、業務能率を批判する最も有力な手段である様だ。この様なデーターが積み重ねられることにより初めて業務の科學的な検討がなされるのであろう。

最後に、本誌にお馴染の吉田幸雄氏は去る7月10日附で厚生省より山形縣衛生部長に榮轉された。併し、今後も本誌編集には引續き陰に陽に協力して頂ける筈である。（小西）

（表紙寫眞は病院學會會場）